

令和元年6月27日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01915

研究課題名(和文) 1920～30年代の日本の女性詩人・ジェンダー・主知的客観性に関する文学研究

研究課題名(英文) Gender and Politics in Japanese women's poetry in the 1920s and 30s

研究代表者

菊地 利奈 (Kikuchi, Rina)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：00402701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：2015年4月から2019年3月までの研究期間のうち、2016年8月から2019年3月までの間、オーストラリア国立大学(ANU)とキャンベラ大学(UC)にて研究をすすめた。国際共同研究の成果として、オーストラリアの詩の出版社からバイリンガル・アンソロジーを出版した。その他、オーストラリア・米国・日本の詩誌に、翻訳や論文を発表し、国際学会やシンポジウム等で女性詩について研究発表をおこなった。

2017年9月には、女性詩に関する国際シンポジウムをANUにて開催した。また、UCで開催された国際詩祭では、2017年と2018年両年とも、日本から女性詩人を招き、バイリンガル朗読会等を企画・実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近現代の日本語女性詩の国際的な研究が進まないひとつの理由に、詩の翻訳が進んでいないことがあげられる。本研究は、英訳が進まず、それがために日本国外で読まれることが少ないが文学的価値のある作品を英訳することにより、日本語女性詩の国際的な研究の発展に寄与するものである。また、国際詩祭等でのバイリンガル朗読を通し、すぐれた日本語女性詩作品を日本語圏外に伝えることに貢献する。

企画したバイリンガル朗読会は、日本国内でも国外でも、すべて一般公開とし、多くの人に日本語詩の魅力を伝えることを目的とした。ワークショップやセミナーにおいても多くは公開講座とし、専門知識の社会還元につと

研究成果の概要(英文)：During my research years, I spent 2.5 years at the ANU and University of Canberra as a visiting fellow and adjunct associate professor for my co-research projects. I have translated and edited two bilingual poetry anthologies: Poet to Poet: Contemporary Women Poets from Japan (co-edited by Jen Crawford) and Pleasant Troubles (co-translated with Harumi Kawaguchi). In 2017, I have organized the international symposium on Japanese women's poetry at the ANU, inviting guest speakers and poets from Europe, Japan and America. I've also organized poetry readings and translation workshops for Poetry on the Move Festival held at UC in 2017 and 2018.

Throughout my research years, I have presented my papers on women's poetry at conferences and seminars, published translations, commentaries and papers in journals, such as in Meanjin (Australia) and Transference (America), and also wrote a chapter for Ikuta Hanayo for the book on women writers in Tottori Prefecture.

研究分野：文学

キーワード：詩 日本近現代詩 ジェンダー 女性文学 翻訳論 比較文学

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

アジア太平洋戦争以前の女性詩人と彼女らの詩作品についての、本格的な文学研究はすすみがおそい。主知的客観性に欠け、感情の吐露や「わたし語り」に重点をおいたとされてきた戦前の女性詩人詩作品は、文学史上、価値が低いと切り捨てられてきたからである。

特に海外ではその研究が遅れており、戦前の日本の女性詩人として国際的に知られているのは与謝野晶子ただひとりであろう。その一因のひとつとして、与謝野の作品の多くが英訳され、容易に手に入る状態にあるのに対し、他の戦前女性詩人たちの作品がほとんど英訳されていないことがあげられる。

本研究は、「(日本の)女性詩は戦後にはじまった」と戦前の女性詩人らを切り捨てた村野四郎ら、日本の(男性)詩人・批評家らの主張を再検討し、文学史に埋もれてきた戦前の女性詩人の作品に着目し、作品を英訳し、国内外において、その文学的価値を再考することを目的にスタートした。

2. 研究の目的

本研究は、アジア太平洋戦争以前、特に1920年から30年代にかけての日本の女性詩人の作品における、感情の吐露の必要性、「わたし語り」が持つ意味、フェミニズム運動の影響、ジェンダーの問題を考察し、彼女たちの作品は主知的客観性に欠けるものなのか、欠けたとした場合、欠けることは文学作品としての価値を低めるものなのか、戦後の男性詩人や男性批評家の「戦前の女性詩人の作品には文学的価値が認められない」とする主張は公平で正しいものであるのか、を再考することを目的として開始された。

3. 研究の方法

(1) 1920年代から30年代に出版された個人詩集及びアンソロジー、文芸誌や詩誌、新聞や雑誌に発表された、女性詩人による詩作品を収集。それらのなかから、文学史上価値が認められると判断したものを英訳し、注釈や詩人紹介、詩が発表された背景などを含むコメントリー付きで学術誌・詩誌に発表してきた。それらの英訳詩をもとに、日本語と英語で、研究発表をおこない、論文を執筆。最終的に、文献収集は、1940年代までひろがった。

(2) 研究期間中の一部にあたる、2016年8月から2019年3月までの二年半を、本研究と連携した科学研究(国際共同研究強化)のため、オーストラリア国立大学研究員(visiting scholar)として在外研究にあてた。オーストラリア国立大学研究員として研究をすすめながら、共同研究の幅を広げ、2017年からはキャンベラ大学でも研究員(visiting scholar)となった。国際共同研究が広がり、詩の共訳に力を注ぐ結果となったこともあり、研究期間を一年延長した。その結果、2018年12月からはキャンベラ大学の adjunct associate professor となり、複数の研究者と共同研究・詩の共同英訳をつづけることができた。

4. 研究成果

(1) 在外研究先のオーストラリア国立大学にて、ANU Japan Institute の協力を得て、国際シンポジウム「International Symposium on Poetry and Translation: Women, Politics, Displacement」(2017年9月)を開催した。
<http://japaninstitute.anu.edu.au/events/international-symposium-poetry-and-translation-women-politics-displacement>

(2) 女性詩の英訳は、*Westerly* (オーストラリア) や *Transference* (アメリカ) 等の詩誌・学術誌に掲載された。また、科学研究(国際共同研究強化)との連携により、在学研究先で共訳作業の幅が大きくひろがった。研究開始時には、戦前作品のみを研究対象としていたが、共同研究をすすめるうちに、日本国外においては、日本の戦後作品においても、読まれている女性作品が非常に限定されていることが判明したため、戦前にかぎることなく、現代女性詩(戦後作品)についても、必要に応じて英訳をおこなった。

英訳した女性詩の一部は、キャンベラ大学准教授の Jen Crawford との共編で、*Poet to Poet: Contemporary Women Poets from Japan* (Recent Work Press, 2017) として出版した。本書については、*Modern Poetry in Translation* (UK)、*Poetry Tokyo*、*Japan Times* などに書評が掲載された。

(3) 研究期間中、Japanese Studies Association of Australia 等の国際学会及び、日本国内外のセミナーやシンポジウムにおいて、研究発表をおこなった。研究開始当初は、20年代から30年にかけて発展したモダニズム詩における女性詩人の活躍、特に左川ちかや江間章子の作品に着目。Japanese Studies Association of Australia 等でモダニズム詩の発展に貢献した女性詩人らの作品について研究発表をおこなった。

その後、戦前詩の調査をすすめるなかで、30年代からは社会的・政治的背景、特にアジア太平洋戦争の影響を色濃く受けた詩が女性によっても多く発表されたことに着目。女性詩が20年代から30年代にかけていかに変容したかに注目し、戦前・戦中に書き続けた女性詩人、生田花世、江間章子、深尾須磨子、英美子などの作品についての分析をすすめ、日本国内外におい

て研究発表をおこなった。

(4) 2018年にはオーストラリア国立図書館のアジア研究研究員 (Asia Study Grant, National Library of Australia) に選ばれ、20年代から40年代にかけての文献研究をおこなった。30年代以降の詩誌、女性詩、フェミニズム運動の中で、徐々に戦争色を強く反映した作品が描かれるようになったこと、その転機が1937年にあることが明確となった。これまで、女性詩人の戦争責任については深く言及されてこなかったが、女性作家、フェミニズム運動家、女性画家、そして当時の男性詩人ら同様、女性詩人らが愛国詩や国民詩、プロパガンダに大きくかかわってきたことが判明した。そのため、20年代から30年代、そして40年代にかけての「詩のつながり」を重視し、1945年の敗戦までの女性詩人の作品を視野にいれ、収集にあたった。

(5) 主眼は戦前にすえたうえで女性詩研究をすすめてきたが、国際共同研究における調査結果等をふまえ、海外における日本語女性詩の英訳不足は戦前作品に限らないことが判明したため、研究対象はひろがりを見せ、結果的に、必要に応じて戦後の現代女性詩をも含めることになった。戦前の作品にかぎらず、現代女性詩人作品においても積極的に英訳をおこなうこととなったため、研究期間中の研究業績には、戦後女性作品に関するものも含まれる。

(6) 国際共同研究の一環であった詩の共訳作業が、当初考えていた以上に重要な位置をしめることとなり、詩の翻訳を通して、さまざまな研究が派生した。たとえば、キャンベラ大学で開催された国際詩祭 Poetry on the Move Festival 2017では、西ミシガン大学教授で翻訳家の Jeffrey Angles とともに、日本語詩の翻訳ワークショップを開催することになった。実際に日本語詩の英訳について講じ、ワークショップから生まれた英訳詩のなかから、オーストラリアの詩誌に掲載された作品もでた。

これらの共訳プロジェクトから、詩の翻訳を通じた文化交流が誕生し、日本語圏・英語圏の詩人たちとの詩の翻訳を通じた相互翻訳ワークショップの企画にもつながった(2018年7月明治大学)。学術的な貢献にとどまらない、詩を通じた社会貢献にも寄与することとなったことは、大きな成果であると思っている。今度も、学術的な文学研究のみにとらわれず、女性詩人らの詩作品が、広く、日本国内外で読まれることに、貢献していきたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計7件)

- ① [Rina Kikuchi](#) tr. Four Poems of Yoshiko Hanabusa, *Transference*, 査読有, vol. 6 2018, 39-48
<https://scholarworks.wmich.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1204&context=transference>
- ② 菊地利奈、現代詩研究におけるナショナリティという「枠」についての考察、彦根論叢、査読無、416号、2018年、36-47
<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/Ronso/416/kikuchi.pdf>
- ③ [Rina Kikuchi](#) & Cassandra Atherton, And the bright morning comes, *Meanjin*, 査読有, vol. 77, issue 2, 2017, 10-12
- ④ [Rina Kikuchi](#) & Paul Munden, Soles - by Ishikawa Itsuko, *Westerly*, 査定有, No. 62 issue 2, 2017, 187-190.
- ⑤ [Rina Kikuchi](#) & Jen Crawford, Three Translated Takako Arai Poems, *Cordite Poetry Review*, 査定有, No. 81, 2017.
<http://cordite.org.au/translations/kikuchi-crawford-arai/>
- ⑥ [Rina Kikuchi](#) & Carol Hayes, My Daughter's Room, Stone Monument and Girl 2 by Ishikawa Itsuko, *Transference*, 査定有, Vol. 4 2016, 45-56.
<https://scholarworks.wmich.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1161&context=transference>
- ⑦ [Rina Kikuchi](#) & Carol Hayes, Three poems of Hirata Toshiko, *Poetry Kanto*, 査定有, 2015.
<http://poetrykanto.com/2015-issue/toshiko-hirata>

[学会発表] (計10件)

- ① [Rina Kikuchi](#), For women by women: gender and politics in Fukao Sumiko's poetry, Cold War Lives and Literatures Workshop (UNSW Canberra, School of Humanities and Social Sciences) 2018年12月11日
- ② [Rina Kikuchi](#), Feminism and Imperialism in Women's Poetry during the Asia-Pacific War, War Feminism and Cold War Lives Workshop (Australian National University) 2018年6月18日
- ③ [Rina Kikuchi](#), Filling in the 'blank page' of literary history: What were women fighting for in WWII Japan through their poetry?, AU CuSPP Thursday Lunch Seminar, 2017年10月26日

- ④ Rina Kikuchi, Continuity/Discontinuity in the 30s and 40s: women's poetry before/during/after the Asia-Pacific War Japan, International Symposium on Poetry and Translation: Women, Politics, Displacement, Australian National University, 2017年9月14日
<http://japaninstitute.anu.edu.au/events/international-symposium-poetry-and-translation-women-politics-displacement>
<http://mongoliainstitute.anu.edu.au/sites/default/files/symposiumprogramjapaninstitute2017.pdf>
- ⑤ Rina Kikuchi, Politics in Women's Poetry: Poems by Fukao Sumako (1988-1974) and Nagase Kiyoko (1906-1995), Japanese Studies Association of Australia Conference 2017, University of Wollongong, 2017年6月18日
- ⑥ 菊地利奈, 社会問題提起メディアとしての<詩>-慰安婦詩における「あなた」と「わたし」とは誰か、滋賀大学経済学部ワークショップ文学研究会 2016年6月16日
<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2016/WS20160616.htm>
- ⑦ 菊地利奈, 戦争と女性: 女性書いた<戦争詩> (パネル「思想・社会・政治からよむ日本近現代女性詩歌-三ヶ島葎子から新井高子まで」) 日本近代文学会2015年度国際研究集会、2015年11月22日
- ⑧ 菊地利奈, 女性はプロパガンダ詩を書かなかったか-太平洋戦争期に女性が書いた「戦争詩(愛国詩・国民詩)」をよむ、滋賀大学経済学部ワークショップ ReD [Rethinking excessively for Documentation] 2015年10月29日
<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2015/WS20151029.htm>
- ⑨ Rina Kikuchi, Women's Voices: poems on women by women during war-time and post-war Japan, International Symposium: Wounds, Scars, and Healing: Civil Society and Postwar Pacific Basin Reconciliation, University of Sydney, 2015年9月30日
- ⑩ Rina Kikuchi, Women's Modernist Poetry in 1930s Japan: Sagawa Chika and her Contemporaries, University of La Trobe, Japanese Studies Association of Australia Conference 2015, 2015年7月2日

[図書] (計2件)

- ① 菊地利奈, 井上博昭、新光江、郷土出身文学者シリーズ⑩鳥取ゆかりの女性文学者-一生田花世一、郷土出身文学者シリーズ、鳥取県立図書館、2017年、91 (58-88)
- ② Rina Kikuchi & Jen Crawford, Poet to Poet: Contemporary Women Poets from Japan, Recent Work Press, 2017. 272

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:
 発明者:
 権利者:
 種類:
 番号:
 出願年:
 国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:
 発明者:
 権利者:
 種類:
 番号:
 取得年:
 国内外の別:

[その他]

ホームページ等

- ① Rina Kikuchi & Jen Crawford, Not Very Quiet: Australian Poets, Japanese Influences, That Poetry Thing (Smith's Alternative, Canberra) 2018年10月15日 (朗読会における日本女性詩バイリンガル朗読)
<https://www.smithsalternative.com/events/not-very-quiet-australian-poets-japanese-influences-52417>

- ② 菊地利奈、朗読会「旅する詩声—Poetic Journey through Translation and Transformation—」企画・MC、下北沢 B&B Poetry Reading、2018 年 7 月 28 日
http://bookandbeer.com/event/20180728_b/
- ③ 菊地利奈、朗読会「Poet to Poet Bilingual Poetry Reading」企画・MC、SYLP Meeting、表参道スパイラル Obla()t、2018 年 7 月 22 日、
<http://oblaat.jp/?p=1327>
<https://www.fukahorimizoho.com/Oblaat/SYLP/180722/n-tKHK3m/>
- ④ 菊地利奈、田中教子他、日本詩歌に見る近現代女性像「翻訳と朗読」、司会・朗読、犬養万葉記念館、2015 年 4 月 19 日
<https://inukai.nara.jp/1125/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8 桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。